

＜ブックレビュー＞
聖書が教える恋愛講座
ジョシュア・ハリス

英語のタイトルは『I Kissed Dating Good-bye』。「ぼくは、デートにサヨナラのキスをした」という意味である。

著者は、なんと21歳で独身の時にこれを書いた。現在30代で、米国メリーランド州ゲーザースバーグにある教会の牧師をしている。2006年11月には、ちあ日本主催のコンベンションでの講演のために来日し、大好評を博した。

処女作がそれほど売れるとは、本人も出版社も予想しなかったのに、あれよあれよという間に全米でミリオンセラーとなった。

著者がデートをやめた理由は、自分が10代で苦い経験をしたことがある。その反省に基づいて、結婚に至る最もよい道、神に喜ばれる道があると、同世代に分かることばで説明したことは快挙である。

今の若者たちの恋愛は、友情をはぐくむという大切なステップを飛ばす傾向がある。互いを縛り合う恋愛関係にあせって入る前に、自由に自分を表現できる友情という段階を通るべきだ。

ジョシュアがデートをやめた理由には、他に以下のものがある。

- ・肉体的な関係と愛とを勘違いする
- ・デートに夢中の二人は、自分たち以外の人間関係を大切にしない
- ・将来への備えから心がそれ、今の楽しみに夢中になる
- ・相手を正しく評価できない不自然な状況を作り出す
- ・結婚ではなく、恋愛そのものが目的となりやすい

では、結婚に備えるには、何が必要なのか？ 創世記24章に出てくるリベカが一つの模範だ。彼女はラクダに水を与えるという目の前の責任を忠実に果たしていたので、神が与えようとしていた特別な選びに応じることができた。

現代の若者にとって「水を与えるべきラクダ」とは何か？ それは家族同士の親密なコミュニケーションであり、神との交わりであり、貯金や献金の実践であり、弟妹の面倒を見ることであり、教会での奉仕、家の買い物、献立作り、炊事、洗濯などの家事を、親に教えられながらやってみることだ。

結婚を真剣に目指す、きよい交わりを「コートシップ」と呼ぶ。著者が自分の信念通り安易な恋愛関係を断ち切ってから5年目に、今の奥さんシャノンと出会い、愛を確かめて結婚した。

日本でも、青年クリスチャン向けの性や恋愛についての書籍が切に必要とされている。このような本が加えられたことは嬉しい限りである。